

みんなで守ろう交通安全

5月13日、産業文化会館前で、春の全国交通安全運動出発式が行われました。

市内で交通事故が多発していることから、行田警察署長らが参加者へ交通安全の徹底を訴えました。式典後、交通安全の横断幕を掲げ郷土博物館までパレードをしながら、歩行者やドライバーに交通ルールの順守と交通事故防止への意識の高揚を呼び掛けました。



酒巻導水路沿いの歩道に桜を植樹

4月23日、酒巻導水路で行田さくらロータリークラブによる「酒巻導水路さくら並木延伸さくら植樹」が行われました。

整備された酒巻導水路沿いの歩道に、同クラブメンバーと地元住民らが高さ2メートルほどのコヒガンザクラの苗木を15本植樹しました。会長の時田忠彦さんは「市内に桜の名所が増えるよう、今後も桜の植樹を行い、保全活動に取り組んでいきたい」と意気込みを語っていました。



レンゲ畑で遊びながら自然に親しむ

4月24日、長野地区にある畑でレンゲ祭りが開催され、東小学校3年生66人の児童らが参加しました。

これは、花や虫などの生き物に直接触れて自然に慣れ親しんでもらおうと毎年行われているもの。子供たちはレンゲ畑で花飾りや草笛を作り、先生やクラスメートに自慢げに披露していました。レンゲに囲まれ、元気に遊ぶ子供たちの笑い声が辺り一帯に響いていました。



ホタルの川での再会を願って

5月6日、古代蓮の里でホタルの幼虫の放流会が開催され、親子連れなど83人が参加しました。

ヘイケボタルの幼虫は古代蓮の里ホタルの会が毎年、卵から孵化させたもので、今年は約5,000匹を人工保育したとのこと。同会は参加者へ幼虫から成虫になるまでの過程を分かりやすく、紙芝居で説明。その後、幼虫の入った紙コップを手渡された親子は、成虫になって川をきれいな光で照らしてくれるよう再会を願いながらホタルの川へと放流しました。



20年ぶりの大相撲行田場所に熱狂

4月19日、行田グリーンアリーナを会場に「市制施行70周年・体育協会創立70周年記念 大相撲行田場所」が行われました。

本市では20年ぶりとなる大相撲行田場所の開催とあって、大勢の人が詰め掛けました。間近で見る力士の迫力のある取り組みの他、禁じ手や珍しい決まり手を紹介した「初切」や力士が歌う「相撲甚句」も行われ、会場は熱気と笑いに包まれていました。



新緑の中を力走

4月28日、「陸王杯第35回行田市鉄剣マラソン大会」が開催されました。

ハーフ、10キロメートル、5キロメートルなど6部門27種目に市内外から3,830人が出場しました。古代蓮の里を出発したランナーは沿道からの声援を背に受け力走。春の陽気を楽しみながらさきたま古墳など新緑の中を駆け抜けました。

蔵や趣のある建物の魅力に触れる

4月20・21日の2日間、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワークによる第15回ぎょうだ蔵めぐりまちあるきが開催されました。

市内に点在する23の蔵や趣のある建物を巡るこのイベントに市内外から多くの方が参加し、スタンプラリーマップを片手にまちあるきを楽しみました。当日は、イサミコーポレーションスクール工場内で市内の足袋業者による「足袋屋横丁」も同時開催。参加者は実際に足袋を履き、その履き心地の快適さを実感していました。また、足袋とくらしの博物館では足袋職人から足袋の文化や作り方などの説明があり、とても興味深く聞いていました。



自然と一体感を味わいながら木登り体験

5月5日、古代蓮の里で(公財)行田市産業・文化・スポーツいきいき財団と「さきたま彩花」道の会によるツリークライミング体験会が開催され、64人が参加しました。

専用のロープやサドル(安全带)、安全保護具を利用して木に登り、自然との一体感を味わうツリークライミング。参加者はインストラクターから登るときのコツや注意点を聞いた後、クスノキに設置されたお菓子が入った籠を目指しました。初めて挑戦する人も多く、最初は少し緊張した様子でしたが、次第に慣れてくると器用にロープを伝って登っていました。

